

戦後文学とアメリカ

～「鐘の鳴る丘」世代からの考察～



危うく戦災孤児になりかけた私だが、そういう自分を「鐘の鳴る丘」世代だと自称してきた。

「鐘の鳴る丘」は戦災孤児たちの施設を舞台にした連続ラジオドラマである。ところがこの放送、実は占領軍の要請から生まれた番組だった。

その事実は私を白けさせたが、そこから戦後文学を読みなおすと、新たな、様々な問題が見えてきたのである。

講師： かつまた ひろし 勝又 浩 氏 文芸評論家、法政大学名誉教

神奈川県生まれ。

法政大学文学部卒業。同学文学部日本文学科教授を務め、『私小説研究』を刊行。

受賞歴：『我を求めて一中島敦による私小説論の試み』で、1974年に群像新人文学賞評論部門を受賞。2004年に『中島敦の遍歴』（筑摩書房）により、やまなし文学賞を受賞。2016年に『私小説千年史 日記文学から近代文学まで』（勉誠出版）により第28回和辻哲郎文化賞（一般部門）を受賞。

主な著書：『作家たちの往還』鳥影社（季刊文科コレクション）2005年、『「鐘の鳴る丘」世代とアメリカ』白水社2012年 他多数

日時：平成29年 8月24日（木）午後2時～4時
（開場 1時30分予

定）

会場：調布市文化会館たづくり 12階大会議場

定員：200人（当日先着）

*手話通訳あり

問合せ：調布市立図書館 読書推進室（たづくり10階）

TEL 042-441-6328（午前9時～午後5時）

共催：調布市立図書館、アカデミー愛とぴあ